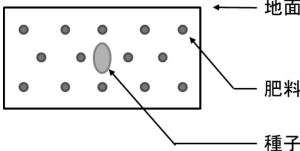
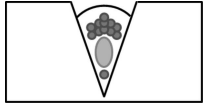
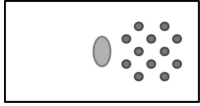


事項	小麦品種「ネバリゴシ」の肥効調節型肥料利用による省力施肥法		
ねらい	<p>適正なタンパク質含有率（日本めん用小麦品質基準値：9.7～11.3%）の小麦を生産するためには、5月中・下旬に窒素追肥を行う必要がある。しかし、この時期は、稲の田植作業と競合するため、省力的な施肥技術の導入が求められている。</p> <p>小麦品種「ネバリゴシ」について、肥効調節型肥料を利用し、追肥を省略する施肥方法の体系について、一定の成果が得られたので参考に供する。</p>		
指導参考内容	<p>1 省力施肥法の特徴</p> <p>追肥を省略できることに加え、慣行施肥体系以上の収量及び子実タンパク質含有率の確保が期待できる。</p> <p>2 施肥方法</p> <p>(1) 肥料の配合</p> <p>溶出日数タイプの異なるセラコート態肥効調節型肥料を次の割合で配合する。</p> <p>R30 : R50 = 4 : 6 または R30 : R70 = 5 : 5</p> <p>「R30」、「R50」、「R70」はそれぞれセラコート態肥効調節型肥料の製品名であり、数字は溶出日数タイプを表す。</p> <p>(2) 施肥量</p> <p>窒素成分で10kg/10aとする。</p> <p>慣行栽培では速効性肥料で窒素成分12kg/10aであるが、本施肥方法では、これより2kg/10a減量する。</p> <p>3 省力施肥の種類</p> <p>セラコート態肥効調節型肥料を用いた省力施肥法は以下の3種類があり、いずれも効果が期待できるので、圃場規模や機械装備等の面から、導入しやすいものを選択する。</p> <p>(1) 全層施肥</p> <p>肥料を圃場全体に施用後耕起し、ロータリーシーダー等を用いて播種を行う。</p> <p>(2) V溝播種同時接触施肥</p> <p>V溝播種機でV字型の溝を作りながら、施肥と播種を行う。</p> <p>(3) 側条施肥</p> <p>ロータリーシーダー等を用いて、播種しながら、種の側に施肥を行う。</p>	 <p>図1 全層施肥</p>  <p>図2 V溝播種同時接触施肥</p>  <p>図3 側条施肥</p>	
期待される効果	「ネバリゴシ」の追肥時期の作業軽減および水稲作業との競合回避に寄与する。		
利用上の注意事項	L P態肥料は根雪前の溶出率が大きいいため、用いない。		
問い合わせ先(電話番号)	農林総合研究所 生産環境部 (0172-52-4391)	対象地域	県下全域
発表文献等	平成25～26年度 試験成績概要集 (農林総合研究所)		

【根拠となった主要な試験結果】

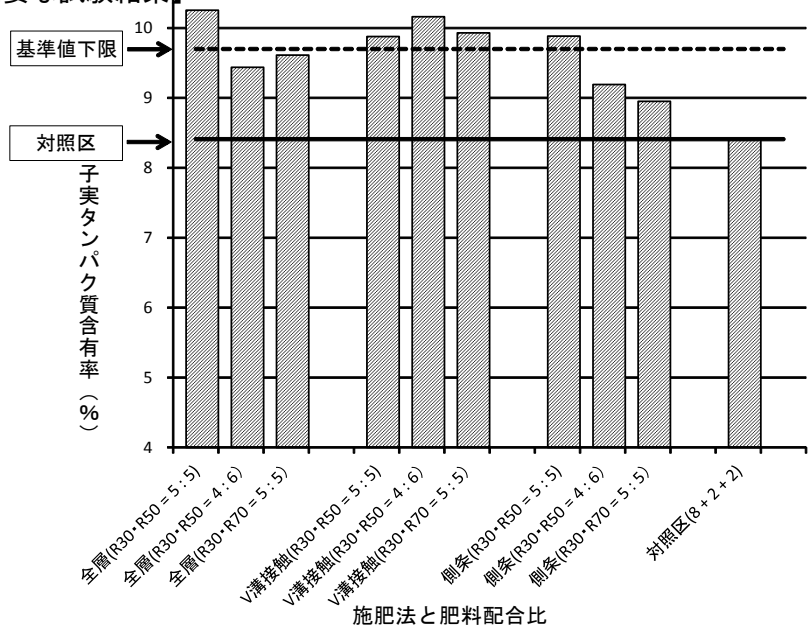


図1 子実タンパク質含有率 (平成26年 青森農林総研)

- (注) 1 区名中の「R30」、「R50」、「R70」はそれぞれセラコート態肥効調節型肥料の製品名であり、数字は溶出日数タイプを表す。比率は肥料配合比を表し、窒素施肥量はいずれも10kg/10aである。ただし、対照区の施肥量は窒素量で基肥 8kg/10a、追肥 2kg/10aが2回である。
- 2 小麦のランク区分での日本めん用小麦品質基準値は、9.7～11.3%、日本めん用小麦低アミロース品種品質許容値は8.0～13.0%に設定されている。

表1 収量及び容積重 (平成25～26年 青森農林総研)

年	区名	精子実重 (kg/10a)	同左標準比	容積重 (g/l)	同左標準比
H25	全層(30・50=5:5)	529	93	807	102
	全層(30・50=4:6)	573	101	798	101
	対照区(8+2+2)	568	(100)	790	(100)
H26	全層(30・50=5:5)	655	121	822	100
	全層(30・50=4:6)	659	122	828	101
	全層(30・70=5:5)	732	135	826	101
	V溝接触(30・50=5:5)	713	132	825	101
	V溝接触(30・50=4:6)	596	110	822	100
	V溝接触(30・70=5:5)	684	127	824	101
	側条(30・50=5:5)	589	109	827	101
	側条(30・50=4:6)	664	123	818	100
	側条(30・70=5:5)	689	127	819	100
	対照区(8+2+2)	541	(100)	819	(100)

- (注) 1 全層：全層施肥、V溝：V溝播種同時接触施肥、側条：側条施肥
- 2 小麦のランク区分での日本めん用小麦品質基準値は容積重840g/l以上

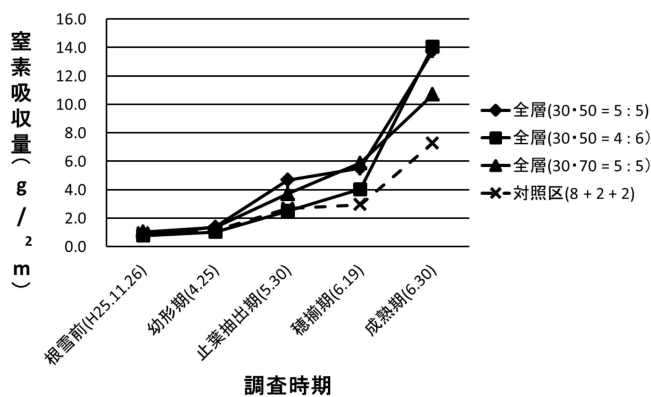


図2 小麦の窒素吸収量 (全層施肥) (平成26年 青森農林総研)

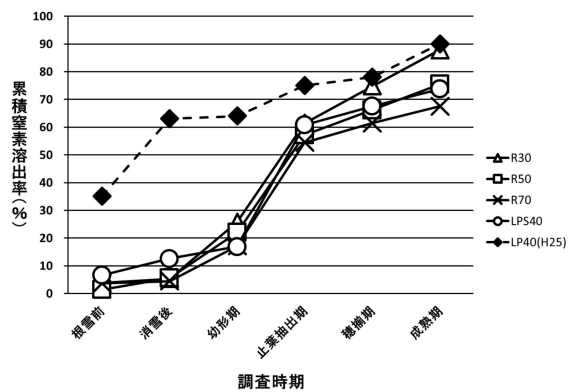


図3 施用した肥料の累積窒素溶出率 (平成25～26年 青森農林総研)